

週刊 教育資料

No.1508

1月28日号

2019年

▼潮流

持続し、自立性のある「寺子屋」運営に

川上千春／公益社団法人日本ユネスコ協会連盟事務局長①

▼校長講話

校長室だよりを活用した学校経営

井口寛隆／東京都武蔵村山市立第三中学校校長

▼危機管理

なぜ、いま校則の見直しか

安藤博／子ども法学者



マイオピニオン

小中一貫教育は新たな段階に
天笠茂／千葉大学特任教授

法律相談

学校における動物飼育
澤田稔／弁護士

資料

「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(答申素案)」に関する意見募集の結果について
文部科学省

川上千春

かわかみ・ちはる◎高校時代の1年半、南米のボリビア(ボリビア多民族国)で暮らす。当時、南米でも最貧国といわれた国との衝撃的な出会いが、途上国に関心を持つきっかけとなる。大学卒業後、商社、財団勤務を経て、1994年7月から日本ユネスコ協会連盟に勤務。国内外のさまざまな活動に携わり、現在に至る。



川上千春氏に聞く①

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
事務局長

潮流◆題字奥野誠亮

潮流

持続し、自立性のある 「寺子屋」運営に

戦後、国連加盟や主権国家として
日本が世界から認められる前から、
教育を通して平和な社会を作るという理念で
全国各地にユネスコ運動が生まれた。

ユネスコ憲章に共鳴し全国に協力会

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
について教えてください。

UNESCO（ユネスコ）は、第二次世界大戦後の1946年に、人類が二度と戦争の惨禍を繰り返さないようにという願いを込めて国際連合（国連）の教育科学文化機関として創設されました。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というUNESCO憲章の理念に感銘を受けた当時の地元有志が中心となり、日本も平和国家として国連のUNESCOに加盟できるようになると1947年の7月19日に仙台にユネスコ協力会ができました。

このような団体が生まれたのは世界でも初めてのことでした。ほぼ時を同じくして、京都や奈良、神戸など各地にもできて、11月には第1回の「ユネスコ運動全国大会」が開かれています。この時点ですでにかなり多くの地域にユネスコ協力会が存在していました。その後も官民一体となってユネスコ加盟運動が進み、1951年7月に60番目の加盟国として承認されました。

サンフランシスコ講和条約の調印が1951年9月、発効するのは1952年4月ですから、主権国家として日本が世界に認められる前にユネスコ加盟国として平和を

すべての人に教育を



希求する国家の一員になれたのは大きなできごとでした。日本が国連の加盟国となったのは1956年ですから、UNESCO憲章の理念に基づき、平和な国家になるというユネスコ運動への国民の思いがそれだけ強かったのだと思います。

この間、1948年には地域が主体となって活動していた各地域のユネスコ運動の団体の連盟体の事務局として、現在の日本ユネスコ協会連盟の前身となる日本ユネスコ協力会連盟が民間のNGO（非政府組織）として設立されました。現在、全国に278のユネスコ協会や、クラブなどがあります。

——現在の主な活動として、どのようなものがありますか。

日本ユネスコ協会連盟は国連のUNESCOや日本ユネスコ国内委員会（文部科学

省内）と連携・協力して活動をしています。が、これらの組織の下部組織ではなく、財政も含めて独立した民間の組織（NGO）で、歴代会長もすべて民間人です。先に述べましたUNESCO憲章の理念に共鳴して、国際平和と人類共通の福祉の実現を目指して、さまざまな活動をしています。

連盟ができた1948年から「UNESCO憲章の理念に基づき平和の普及」を目指して各地域でさまざまな活動を展開しています。2000年以降になると、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD）持続可能な開発のための教育）や、2030年までに国際社会が「丸」となって取り組むべき事柄を17の目標（持続可能な開発目標、SDGs）の中で、目標4「質の高い教育をみんなに」（すべての人への公平で質の高い教育と、生涯学習の機会を提供すること）を通して平和な世界への貢献を目指しています。

現在の活動を大きく分けると「世界寺子屋運動」「世界遺産活動・未来遺産運動」「減災教育と自然災害発生後の教育支援」や次世代の育成に関わる活動などがあります。

教育で明日を切り拓く

——「世界寺子屋運動」とはどういうものですか。

世界には教育の機会がないために文字の読み書きができない15才以上の大人が、約

7億5000万人、小・中学校に行けない子ども約2億6200万人いると言われています。紛争や貧困のために小学校にさえ通えない子どもたちや教育を受けられないまま大人になった人たちに「寺子屋（地域学習センター）」でノンフォーマル教育（公教育外の学習の機会）を提供することで、貧困の連鎖を断ち切り、人びとに教育機会を提供することで平和の礎を築くことを目的としています。これまで世界の44カ国1地域に532の「寺子屋」を建てて、約131万人の人に学びの機会を届けました。現在は、カンボジア、アフガニスタン、ネパール、ミャンマーを活動拠点にしています。

UNESCOでは、持てる者が貧しい者に援助（ギフトやプレゼント）をするのではなく、対等のパートナーとして共に学び、共に生きる喜びを分かちあう精神を重視した「Co-Action」（コ・アクション）プログラムを推進してきましたが、建物など目に見えるハード面だけでなく、ソフト面でのニーズに応えることも大変重要です。識字率が高い日本の秘密は学校教育以前にも全国に寺子屋があり、庶民も含めた「読み書きそろばん」の基礎教育に貢献してきたことにあります。そこで、そのような「寺子屋」に相当する教育の場を作るとともに、地域の人たちの生活向上のためのプログラムも実施することで、識字教育以外にも生活に役立つ知識の提供や収入の向上につな

がる技術訓練、「寺子屋」の設立や運営方法など、人びとが先進国等からの一方的支援から自立し、貧困から抜け出す仕組みを作ることを「世界寺子屋運動」として展開してきました。

今年は、世界寺子屋運動の30周年に当たります。そのきっかけになったのが、1987年に歌手のマイケル・ジャクソン氏が来日した時に開いたチャリティーオークション等で1000万円を超える寄付を日本ユネスコ協会連盟に託してくれたことでした。この寄付を基金にして世界寺子屋運動がスタートしました。1990年は国連が制定した「国際識字年」でしたが、その前年の1989年に識字教育の普及を手掛けるユネスコ世界寺子屋運動を開始することができたのです。

「たんす遺産」を有効活用

——世界寺子屋運動が始まった年の翌年から、「書きそんじハガキ・キャンペーン」を始めています。これはどういうものですか。

書き間違えや古くて使用しないなどの理由で投函されていない切手が印刷された未使用ハガキを回収するキャンペーンです。集まったハガキを募金に替えて、世界寺子屋運動の展開に使用しています。例えば、11枚の書きそんじハガキで、カンボジアでは1人が1カ月学ぶことができます。ハガ

キのほか、未使用の切手やプリペイドカード（QUOカード、図書カードなど）、商品券等でも同等の支援ができます。昨年12月から今年5月末までを強化期間としたキャンペーンを進めています。ハガキや金券の回収は1年中、受け付けています。2019年度は、5月末までに書きそんじハガキ100万枚の回収を目標にしています。「プリペイドカード、書きそんじハガキ、未使用切手」を「タンズ遺産3兄弟」として、他にもタンズの中に眠っている金券や株主優待券などを回収して、募金に替えています。

——これまで、どのような実績がありましたか。

昨年（2018年）のキャンペーンでは、書きそんじハガキを全国で約96万枚回収しました。これを募金に替えることで、アフガニスタンとカンボジア、ネパールで計4軒の新しい「寺子屋」が完成しました。また、ミャンマーでは、小・中学校を中途退学して働く青少年への支援も始まり、4カ国で5179人が新たに学ぶ機会を得られました。また、この4カ国で識字クラス、小学校クラス、幼稚園クラスのほかに、技術訓練などを実施し、5000人以上が参加しています。なお、世界寺子屋運動全体では、これまで累計で約131万人に学びの機会を届けることができました。

——この運動には地域や企業からの支援

も大きいと聞いています。

さまざまな個人、団体や企業の関係者にご協力をいただいています。世界寺子屋運動名古屋実行委員会は、この運動が始まった1989年から毎年、書きそんじハガキの回収活動などにご協力をいただいています。また、（株）電通は2003年から社会貢献活動の一環として、書きそんじハガキ・キャンペーンのオリジナルキャラクターの考案や回収箱の作成、世界寺子屋運動の広報活動などをバックアップしていただいています。

——「寺子屋」で学んだ現地の人たちがらどんな声が届いていますか。

カンボジアのサランちゃん（14歳）は家計の苦しさから小学校を中途退学しました。「父を亡くしてから母と6人の兄弟と一緒に暮らし、収穫の時期は家族みんなで仕事をしています。寺子屋で再び学ぶチャンスをもたらえて嬉しいです」と語ります。同じくネパールの寺子屋に通うカトゥンちゃん（12歳）は「自分のように学校に行けない子どもが以前はたくさんいましたが、村に寺子屋ができて私たちの未来が明るくなりました」というメッセージを寄せてくれました。今後も、永続的で自立性のある「寺子屋」の運営を通して、村が活性化できる体制を整えていきたいと考えています。

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟＝<http://unesco.or.jp/>